

第6分科会

高等学校における図書館活動

読む喜び、知る楽しさを深化させる
専任職員の存在とは

浦野 はるみ (聖望学園)
中山 淳子 (浦和西高校)

I. 参加者 事前申し込み25名、うち欠席5名。当日申し込み2名。

II. 所属

学校図書館に正規・臨時的任用を問わず、専任で勤務している人 18人
司書教諭あるいは図書部として学校図書館に関わっている人 1人
学校図書館について勉強している、あるいは興味関心のある人 3人

III. 分科会実行委員長挨拶

大宮武蔵野高校 吉岡祥子
高等学校の図書館というと、高校に勤めていない限りは自分が高校生だった時、そして自分の子どもが高校生となった時の2度しか人生に登場しません。しかもいずれも3年間という短い期間です。しかし人間の成長にとっては真に貴重な3年間でもあります。その視点からもっと多くの方に関心を寄せていただきたいと願っています。本日はそのための一助としていただければ幸いです。

IV. 分科会趣旨

坂戸西高校 田沼 澄子
東京学芸大付属小金井小学校司書の中山美由紀さんが提唱しているものに「学校図書館7step」があります。

1990年代以降、「学校図書館を考える・近畿」や文庫関係者などを中心に、各地で学校図書館に人を置く運動が起こり、いまでは住民団体が100を越えるようになりました。これらの運動によって、小中学校にも「人」が配置されるようになりました。そのことで学校図書館は鍵のかかった倉庫から脱却し、1stepはクリアしつつあります。

しかしながら、2step以降の、学校図書館本来の機能を発揮するためには、やはり専任で専門的な職員の配置が不可欠であると

私は考えてきました。はたしてそのことは本当にそう言えるのか。調査および実践発表から検証し、県民のみなさんに広く知っていただきたいと考えて、この分科会を設定しました。

したがって、職員制度のあり方について今回論議はできません。また、埼玉県内の高校図書館の歴史や現状についても説明は省略させていただきました。

発表1 「学校図書館員の職務分析」 聖望学園中学高等学校 浦野はるみ

1. はじめに

2. 調査に取り組むきっかけ

・大学図書館や公共図書館で仕事をしている人でも、学校図書館は馴染みがあまりないという現実

・「人が配置されている学校図書館」の条件の違いを実感

・現状を把握し、目指すべき学校図書館と現実との格差を知り、今後の活動に活かしたい
→学校図書館に直接かかわらない人に説明できるような、データの必要性を実感

3. 埼玉県内教育委員会対象「学校図書館職員に関する調査」について

埼玉県内の小中学校の学校図書館職員に関するアンケート調査を行い、その現状を把握することが目的

3-1. 調査の方法と概要

「学校図書館職員に関する調査」は、埼玉県内90市町村を対象とし、平成16年(2004)4月1日を回答基準日とした。調査票は郵送で配布、回収を行なった。調査時期は以下のとおり。

調査票郵送：平成15年11月 4日

調査票再送：平成15年12月 4日

72自治体より調査票を回収(平成16年2

月 25 日現在) 回収率 80%

3-2. 調査結果集計グラフ・表

4. 専任の学校図書館職員の職務とその実施状況について

4-1. 調査の背景と本調査の目的

本調査では、専任の学校図書館職員が配置された学校図書館の運営の実態を、一定期間内での各種の業務に費やす時間を測定して客観的に明らかにし、専任の担当者がある学校図書館における主要な職務内容の在り方を考察する。

4-2. 調査の内容

本調査は、「学校図書館の1年間の活動調査」と「時間配分調査」の二つの調査から構成される。

・「学校図書館の1年間の活動調査」

学校名、回答者氏名、職名と、回答者が勤務する学校図書館の蔵書数や分掌人数等の基本事項についての16質問と「学校図書館業務チェックリスト」の職務分類コード表に対応した83の質問について、「十分実施、実施、部分実施、実施せず」という4つの選択肢から一つ選択する4件法の質問からなる。

・「時間配分調査」は、93項目の職務からなる「職務分類コード表」注1)、および、職務の実施内容と所要時間を記録するための「業務従事調査票」からなる。「業務従事調査票」の記入は、回答者本人が実施した職務の開始時間と終了時間を矢印で示し、その下に所要時間および「職務分類コード表」の該当する職務コードを記入する方式をとった。調査票には備考欄も設け、特記事項等も記入できるようにした。

4-3. 調査方法

4-3-1. 調査対象 中学または高等学校(中高一貫含む)の専任学校図書館担当者

4-3-2. 調査方法 調査票を郵送

4-3-3. 調査時期

第1期 13校に対して調査票郵送:平成

16年6月25日 回収数6校

第2期 9校に対して調査票郵送:平成16年8月16日 回収数6校。

4-4. 「学校図書館の1年間の活動」

今回調査した学校図書館では、職員配置に関しては、4つの種類に分類することができる。

また、ボランティアは今回調査した学校図書館にはいなかった。

(1). 常勤の学校司書が配置され、司書教諭は非専任で係教諭が配置されている場合。(6校)

(2). 常勤の学校司書が配置されているが、司書教諭が配置されず係教諭が配置されている場合。(2校)

(3). 専任の司書教諭が配置されているが、学校司書の配置はなく係教諭の配置がある場合。(2校)

(4). 専任の司書教諭が配置され、さらに学校司書と係教諭が配置されている場合。(2校)

スタッフ数の違いや職種の異なる学校図書館があるとはいえ、今回の調査校には専任の図書館担当者が配置されており、基本的な学校図書館運営を行い得る学校図書館であるといえる。

4-5. 調査結果概要

表4-1. 調査協力校の学校図書館運営の現状

表4-2. 調査協力校の学校図書館スタッフの状況

4-6. 専任の司書教諭・学校司書の職務内容とその時間配分調査の結果

表4-3. 調査協力校の学校図書館職員の職務分類

4-7. 専任職員の時間配分の特徴

公立や私立ではなく、学校図書館職員配置数によって調査の数値に差が見られた。学校図書館職員が複数配置されている学校では、

業務が分担して行われているため、ひとつの業務を連続して行なっている場合が多く、さらに、貸出・返却や装備といった、他校で多く実施している項目に実施率が低い例が見られた。

4-8. 専任の学校図書館担当者の職務の時間配分調査の結果概要

学校図書館職員の職務に関する時間配分調査から、次のような傾向があることが明らかになった。

- (1) 資料整備に時間を割いている
- (2) 貸出・返却に時間を割いている
- (3) 利用指導・読書指導の実施割合が低い
- (4) 図書館以外の部署との連携および連絡の不足
- (5) 専任の学校図書館担当者が1名の場合、仕事が中断されるなど集中した作業時間の確保が難しい

(6) 専任の学校図書館職員が1名の場合、勤務時間外での作業が目立つ

5. 学校図書館職員を考える

6. 質疑応答

・県内で働く小中学校図書館職員から発言と質問が出た。

注1) 浦野が作成したオリジナル

発表2 「図書館からの進路支援」

浦和西高校 司書 中山淳子

0. はじめに；学校図書館問題研究会埼玉支部での取り組みについて

2006-2007年の例会（月1回）において研究テーマを「図書館からの進路支援」とした。今回はその過程で作成した資料を中心に報告する。

1. 進路指導年間計画に合わせた図書館のアプローチ一覧について

進路支援はタイミングが大切である。勤務校の進路指導計画表を各自が持ち寄り、どんな行事があるか洗い出し、その際に図書館は

どんな支援をしているか、できるかを話し合っ

- ・3年生バージョン（資料①）
- ・1・2年生バージョン（進路行事まとめのみ）

2. 進路資料比較分析表について

「なるにはBOOKS」（ペリかん社）や「まるごとガイド」（ミネルヴァ書房）などの進路関連シリーズを比較し、その特徴を把握するために表を作成した。比較項目は以下の通りである。

- ・群（職種を系列で扱っているか特定職種に限っているか）
- ・対象（仕事に対する動機付け、仕事に興味をもった生徒向け、目標がはっきりした生徒向け）
- ・索引の有無
- ・ビジュアル度
- ・参考文献・HPの明示の有無（推奨本リストがある。参考文献のみ掲載。掲載なし。）
- ・学校や養成機関リストの有無
- ・就職のノウハウ（採用試験対策が詳しい。求人情報が詳しい。記載はあるが詳しくない。なし。）
- ・就職先を探すリストの有無
- ・適性診断テストの有無

3. 各校の具体的アプローチ事例について；学校図書館問題研究会三重大会ナイターでの発言から

4. まとめ

- ★タイミング
- ★連携（校内・校外）
- ★図書館「ならでは」の支援

5. 質疑応答

・フロアーから実践例が報告された

資料1 ◆3年生バージョン(計画とアプローチ一覧)

月	進路関連のできごと	図書館からのアプローチ/備考
4月	進路希望調査 分野別ガイダンス① 模試(就職・公務員・専門) 適性検査(就職) (進路用写真撮影)	年度の始めとして進路コーナー、資料があることをアピール 図書館だより、先生を通して * 若干まだ関心が薄いかも?
5月	分野別ガイダンス②(内容は?) 保護者向け説明会 卒業生による進路説明会 * 学校により時期はまちまち	説明会に向けてできることは?
6月	三者面談 小論文指導開始 分野別ガイダンス③ (具体的な進路先を決め始める) 願書配布(公務員) 就職アドバイザーによる指導 面接指事開始(就職・公務員) 進路講演会 * 時期は学校による	三者面談直前に何ができるか? この辺りから生徒の自覚が始まることも 小論文(担当の先生と連携)
7月 8月	7/1求人票受付開始(就職) * 出陣式をする学校も 希望企業の決定(就職) 面接練習・履歴書練習(就職・公務員) センター試験説明会(大学) 推薦・AO入試説明会(大学) 小論文補修 学校見学・体験入学(大学・専門) 企業見学(就職) 企業の優先席位を決定(就職)	業界研究本などの紹介 推薦の本 新聞の切り抜き 小論文対策として、「新聞の読み方」が分かるようなアプローチとしては? 路線図 時刻表(意外に必要) キャンパスMAP
9月	推薦入試説明会・校内選考 (4年制大学・短大・専門学校) 応募書類送付(就職) 事前の面接練習(就職) 試験開始(就職) 下旬:センター試験説明会	小論文・面接・自己推薦の書き方の資料などを面展示 9~10月は医療系進路のレファレンスが多い 適性検査・一般常識・面接の本などを面展示 (ことわざや四字熟語の本もあるとよい)
10月	センター試験出願 推薦入試受付開始 内定者指導…礼状 など(就職) 中旬:進路内定者、進学先からのレポートが このころ始まる	レファレンスへの対応レポートにも図書館を使っても らえるようPR
11月	一般推薦入試開始(大学・短大・専門)	
12月	センタープレ模試	センター試験対策本など
1月	センター試験直前指導 センター試験 私大一般入試	進学先からの課題対応
2月	家庭研修(3年生登校せず) 国公立大入試	
3月	企業研修(就職)	

* 2学期は個々の生徒に対応するケースがほとんど。全体に投げかける機会が少ない。

PRのキーとなるのは7月ではないか。

小論文や面接の指導の 때가、生徒の意識も高まっているのでねらい目では。

* 面接や一般常識などの資料は使われる時期が集中しているので、そろえても不足しがち。
どうすればいいか?